**地域密着型サービス運営推進会議記録（第　3　回）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 施設名 | グループホーム花乃苑 | |
| 施設種類 | 認知症対応型共同生活介護 | |
| 開催日時 | 令和３年　8月　30日　　１０時００分　～　１２時００分 | |
| 会場 | 花乃苑　本部 | |
| 参加者 | 利用者代表 | 1人 |
| 利用者家族代表 | ０人 |
| 民生員 | ０人 |
| 高齢者お世話センター | ０人 |
| 市職員 | ０人 |
| 他事業所 | 2人 |
| 有識者 | １人 |
| 事業者 | 7人 |

|  |  |
| --- | --- |
| 報告事項  議題① | 1. 現状報告   **新型コロナウィルス感染症による感染予防のため、花乃苑グループの３施設の苑長・副苑長が出席し会議を行った。また、有識者としてコンサルタントの方、福祉用具事業所の方にも出席をお願いした。**  ２．入居者数　　男性3名　女性15名　　(８/３０現在)  　《要介護別》　要介護１（4名）要介護２（5名）要介護３（8名）  　　　　　　　　要介護４（1名）要介護５（0名）    ３．入・退居者　(R3.7/31～R3.8/30)  　　　　　　　　8/ 1 入居　女性　介護1　病院より  ４．活動内容　　お誕生会　夏祭り　園芸（花苗植え）  　　　　　　　　菜園より野菜収穫  **「身体拘束等適正化対策検討委員会」**  現在、身体拘束に該当なし。身体拘束に発展しそうな不適切なケアはないか検討する。  〈検討内容〉  夜間不眠・不穏、徘徊、易怒性のある利用者様について、夜間良眠ができ  るよう環境を整え、声かけの工夫等を行ってきたが改善せず対応が困難になっていた。かかりつけ医へ相談したところ、精神科の受診を勧められ、家族の了承も得て精神科を受診し眠剤や安定剤が処方となった。服薬開始後、症状はやや改善傾向にあったが、約2カ月が経過した頃より、再び冒頭の症状がみられるようになってきた。最近ではほぼ1日置きに不眠の日があったり、食事をしていないと急に怒鳴りはじめることがしばしばみられ、対応が難しくなってきた。精神科に相談したところ、高齢であるため処方できる薬には限りがあるとのことで、興奮時用の屯用薬が処方となった。不穏や興奮時に屯用を服薬してみたが、あまり効果は得られておらず再受診の予定である。  〈検討結果〉  　高齢者にとって眠剤や精神薬の服用については、副作用による、ふらつきや急な眠気等で転倒事故のリスクが高くなる。また、薬の作用によりその人らしさを奪いかねない。安易に薬剤によって行動を制限することがあってはならないことである。しかし、共同生活をする上で他利用者への迷惑行為はなくしたい。できるだけ薬剤に頼らず認知症による周辺症状が緩和できるよう、その症状の原因を見つけ出し、対応が上手くいった場合のケアの方法等を職員間で共有し、本人の自尊心を傷つけない対応を心掛けたい。 |
| 議　題② | **「重度化した利用者にも対応できるよう設備導入を検討」**  　現在、浴室は一般浴のみであり下肢筋力が低下した利用者様はシャワー浴のみの対応になることが多い。設備的に重度化した利用者様にご不便をおかけしてしまうことから、これまでは重度化した場合、特養へ転居される利用者様もいらした。しかし、重度化しても住み慣れた当苑で、より快適に安心して生活を継続できるよう、特浴槽の導入を検討している。福祉用具の事業者より特浴槽についての説明を受ける。  　感染予防の観点からもミスト浴槽が最適ではないかとのこと。メリットとしては利用者の体力消耗が少ない(入浴後疲れない)、湯船に入るより体が温まる、職員の介護負担が少ない(浴室内の温度・湿度が上昇しにくいのでマスクを着けて介助しても息苦しさがない)、水の節約、手入れが簡単等々。導入するには建物の改修工事が必要となるが前向きに検討中である。 |
| その他 | **「面会について」**  8月より面会の規制を一部緩和し、感染対策をとりながら対面での面会を行っていたが、県内でも感染者が増加傾向にあり、県外では予防接種をしていても高齢者施設でのクラスターが発生したとの報告もあり、再び面会制限をさせて頂くこととなった。 |